歓迎 電機連合千葉地方協議会の皆さん

社内見学に訪れた電機連合千葉地方協議会の皆さん＝4月8日、東京・築地の朝日新聞東京本社

報道・編成局や印刷工場を見学

電機連合千葉地方協議会の皆さんが4月8日、東京都中央区築地の朝日新聞東京本社を訪れました。本館2階の読者ホールで見学案内を担当する係から説明を聞いたり、紹介ビデオを見たあと、実際に新聞作りをしている報道・編成局や印刷をしている輪転機、新聞をこん包、発送したりするところを見学しました。

136年の伝統 漱石や清張も

きょうお越しいただいた朝日新聞は2015年、創刊136周年を迎え、名実ともに長く日本の言論界をリードしてきました。

1945年11月7日、宣言「国民と共に立たん」を掲げ、民主主義の確立に寄与し、数多くの特報を掲載してきました。特に調査報道の分野ではロッキード事件やリクルート事件をはじめ、数々の業績から「お家芸」とまで称されています。

朝日新聞の伝統は、大勢の先人たちの努力によって築かれました。そして多くの読者の信頼で支えられ、営々として新聞発行の使命を果たしてきました。

文豪・夏目漱石は、東京帝大の講師を辞めて1907年、41歳で朝日新聞に入社しました。入社の辞で「変わり物の余を変わり物に適する様な境遇に置いてくれた朝日新聞の為めに、変わり物として出来得る限りを尽すは余の嬉しき義務である」と書いています。

漱石はすでに「吾輩は猫である」などを発表していましたが、朝日新聞では、「虞美人草」「三四郎」「心」など、数多くの小説を連載。文芸欄の編集も担当し、新進作家を発掘したりしました。

1904年には、言文一致体で小説を書き、日本の近代小説に新分野を開いた二葉亭四迷が入社しています。「其面影」「平凡」を書きました。二葉亭は希望してロシア特派員になりますが、現地で病気になり、志半ばで亡くなりました。

「一握の砂」などを発表し、夭折した天才歌人・石川啄木も1909年に校正係として入社しましたが、歌の才能が認められ、朝日歌壇の選者に抜擢されています。

時代が下って昭和になると「ゼロの焦点」「点と線」などを書いた松本清張がいます。朝日新聞の広告部に1937年から56年まで在籍しました。

また、「遠野物語」を書き、日本の民俗学の祖といわれる柳田国男は朝日新聞の論説記者として社説を執筆。民本主義を唱えた政治学者吉野作造も一時、朝日新聞社員でした。東洋史学の内藤湖南も論説を担当しました。

今も茶の間の人気漫画「サザエさん」は、長谷川町子の作で、1949年から25年間、6477回にわたって、朝日新聞に連載されました。

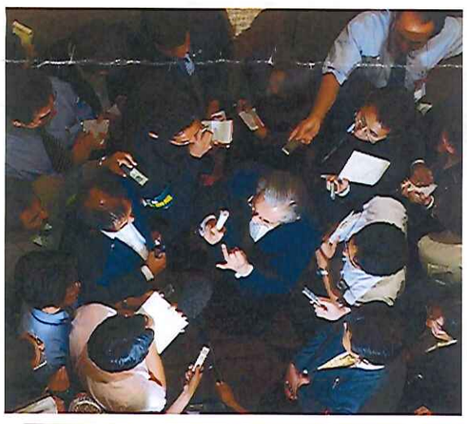
紹介すべき人々はまだまだいますが、「無名の社員」たちの力も無視できません。小さな朝日人の大きな一群が朝日新聞の伝統の松明を確実に引き継いできました。

感想お寄せ下さい

見学コースは毎日の生活に欠かせない新聞が、取材や印刷を経て、みなさんのご家庭に届くまでの仕組みや、新聞社で働く人たちの様子がわかりやすく理解できるようになっています。

みなさん、朝日新聞社を見学して、新聞が出来るまでの仕組みがお分かりいただけましたでしょうか。

本日の見学で感じたこと、もっと知りたかったこと、お気づきの点などがあれば見学係へお寄せ下さい。宛先はこの新聞の右上にあります。



渦中の人物に取材する記者

編集作業中のスタッフ

高速オフセット輪転機

朝日新聞

発行
朝日新聞
東京本社
見学記念

〒104-8011
東京都中央区築地
5丁目3番2号
朝日新聞東京本社
見学係
03－5540－7724

大阪で創刊

朝日新聞の第1号は、1879年（明治12年）1月25日に大阪で発行されました。1部（4ページ）が1銭で、1カ月の購読料は18銭でした。当初の部数は約3000部でしたが、1883年（明治16年）には2万部を超え、全国のトップになりました。1888年（明治21年）には東京朝日新聞も創刊されました。今では東京、大阪、西部、名古屋の4本社と北海道支社であわせて約770万部を発行しています。通信回線を使ってロンドン、ニューヨーク、ロサンゼルス、シンガポール、香港などでも印刷、発行しています。2011年5月には、携帯用端末やパソコンなどで読む電子新聞「朝日新聞デジタル」も創刊。携帯電話へのニュース配信なども充実しています。

世界に広がる